

# 月刊 やちまなこ

2013.4.15 発行

No. 185

## 4 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



雪解けの始まった湿原は雨も加わり、一面水浸しとなってしまい、その昔、湿原が海だった時代を思わせるような景観が広がっていた。タンチョウが営巣しかけたヨシ原も水没してしまい、ゆらゆらと揺れる水面には、早くもエゾアカガエルの卵塊がキラキラと輝いていた。厳しい冬から解放された湿原には新たな命を育む季節を迎えた。



## コッタロ川と湿原のほとりから

### 154 4月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

白い魔法が解け、そよ風のメヌエットがささやきかけるコッタロは、“虹色の心のしらべ春うらら”の昨今です。水辺を歩けば黒々と産みつけられた卵塊が日増しに盛り上がり、水中から沸き上がるカエルの合唱や、山の神の呼び声に応じて踊り歌い乍ら移動する野鳥等に森羅万象全てが息づく季節の始まりを実感しております。

それにしてもこの冬、長居を決め込んだツグミー羽が常連の鴨とのバトルでしっかり学習し会得した物の数々は計り知れず、中でも食材(リンゴ、ミカン、カボチャ、トウキビ)の旨さには腹鼓を打ち鳴らしていた様です。その御満悦な風貌に敬意を表し、この一枚を全国にアピールさせて頂きたく存じます。彼の威厳たるや、まるでタタルケビッチ(ポーランドの哲学者)然りとしているではありませんか。



ところで、去る7日の爆弾低気圧がもたらした大洪水で、丁度中盤にさしかかっていた抱卵中の丹頂は巢の嵩上げ作業もむなしく、一旦はギブ・アップして、交尾をやり直しました。ところが翌8日朝には再び抱卵しており、転卵時に2卵も撮影したのですが、3時間余り放っておかれた卵が果たして孵化するものか否か、半信半疑のまま、4月号を認めねばなりません。

一方の第2コツ&タロは湿原下流域の営巣地で順調な様子にホッとしており、無事であれば18、19羽目が今月末に、又、第一コツ&タロの卵も、生きていたならば22、23羽目としてこの世に誕生予定ですが、彼等の運命やいかに???神のみぞ知る、と云ったところでしょう。



3月中旬、コッタ口湿原周辺の林縁で数羽のオオマシコ(大猿子)の群れに出会いました。色彩が



乏しい冬の湿原で見る赤い鳥は、鳥好きにとってはおもわず笑みがこぼれる人気の鳥です。枝から枝へ移動しながら体を伸ばしてヤマハギの実をついばんだり、雪山や地面を歩き回りながら餌を探す姿が見られました。写真のように全身紅色なのが雄で、雌はスズメに似て全体が淡褐色で赤みは部分的です。夏鳥として渡来する全長15cmのベニマシコ(一部留鳥)と同じアトリ科の仲間ですが、全長17cmのオオマシコの方がずんぐりしていて尾が短めです。来シーズンの渡来に期待しましょう。

アズマイチゲとウラホロイチゲ

あるこっと周辺では、コッタ口展望台へ向かう途中の釧路川岸の土手で4月頃から咲き始めます。今年はまだ開花を確認していませんが、写真の場所は、雪解け水で川が氾濫したり大雨による洪水で度々冠水するような環境なので、一面に咲き誇る姿が見られた時はほっとします。花茎は高さ20cmほどで、花弁のように見えるがく片が、10枚前後の方がアズマイチゲ(東一華)で、枚数が少なく小ぶりの方がウラホロイチゲ(浦幌一華)です。この可憐な花たちは、初夏には地上部が枯れてしまう春植物の仲間です。春の到来を告げる妖精に会いにでかけませんか。



ネムネムのとうろうろう日記 Vol.42 「来る、きっと来る、きっと来る・・・」

今シーズンの冬は雪が多く、また寒さも厳しかったのですが、いきなり暖かくなり、春はちゃんと訪れました。

頭上をみると、シラカバの枝先に雄花がすくすくと育っていて、暗澹たる気持ちになります。もうすぐこの雄花から花粉が飛び、水たまりの縁や建物の隅に、黄色い粉が溜まることでしょう。・・・実は私、シラカバの花粉アレルギーなのです。

春先の調査のたびにくしゃみ連発(鼻をかんでばかりでノートが取れない)、目や顔がかゆく、おかしいなと病院に行ったら、医者から「君は正真正銘、立派なアレルギー体質!」と宣言されました。シラカバアレルギーはバカにならないのです。バラ科の果物アレルギーも併発しやすく、そうなりとイチゴもリンゴもモモも食べられなくなります(そんな人生、イヤ~!)

大のネコ好きなのにネコアレルギー、野外で仕事なのにシラカバアレルギー。この上、食い意地の張った果物アレルギーになるわけにいかず、真面目に薬を飲んで、悪化を食い止めなくてはなりません。

辻 ねむ(標茶町郷土館学芸員)

4がつ 6にち	ばしよ とうろ
---------	---------

この枝先を見ているだけで、かゆい!

# 5月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

## 釧路湿原の野鳥散策会

[日時] 5/11(土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 15名、無料

[場所] 蝶の森・シラルト口湖周辺

[持ち物] 双眼鏡(無料貸出も有り) フィールド状況によって長靴を用意してください。

平成25年度 標茶町郷土館・塘路湖エコミュージアムセンター共催企画展

**よみがえるアイヌの伝成品 ~虹別コタンと塘路コタンの世界~** (4/27~5/6まで開催)

申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

**春の湿原ハイク** [日時] 5/12(日) 10:00~12:00

申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

## 塘路湖・シラルト口湖・コッタ口湿原周辺の自然情報

【植物】(3/25)フクジュソウとフキノトウの花 (3/29)キジムシロとエゾエンゴサクの葉・ホオノキの冬芽 (4/12)エゾエンゴサクの花・バイケイソウの葉・ギョウジャニンニクの葉・エゾトリカブトの芽 (4/13)バッコヤナギの芽・ネコノメソウとオオウバユリの芽

【鳥】(3/16)ヒシクイ・オジロワシ・(シマ)エナガ・ホオジロガモ・カワアイサ・コロニーに座っているアオサギ (3/17)タンチョウの番い(3/23)ヤマゲラ(3/24)オオマシコ (3/25)ミコアイサ・マガモ (3/29)ヒガラ・(ミヤマ)カケス・オオハクチョウ (4/2)ヒシクイ (4/6)オナガガモ・スズガモ・ヒドリガモ・キンクロハジロ (4/12)キジバト・ハヤブサ・ハシボソガラスの巣作り・オオワシ

【その他】(3/16)エゾリス (3/24)キタキツネ (3/29)エゾタヌキの死骸 (3/31)エゾユキウサギ (4/6)テントウムシ (4/7~14)1060号道道クチョ口原野塘路線道路滞水/冠水のため通行止め(標茶6~7日の降水量104.5ミリ) (4/12)エゾアカガエルの鳴き声 (4/14)シラルト口湖全面解氷・アリの活動

春は空気が乾燥して火災が起こりやすい季節です。野外活動の際は火の取り扱いに十分注意しましょう。

日出・日入時間 4/15(4:41,18:05)・4/30(4:18,18:22)・5/14(4:01,18:38)



テイク・オフ直前のカワアイサ(4/13塘路湖)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:[emc@hokkai.or.jp](mailto:emc@hokkai.or.jp)

開館時間 10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料